職能科通信７号

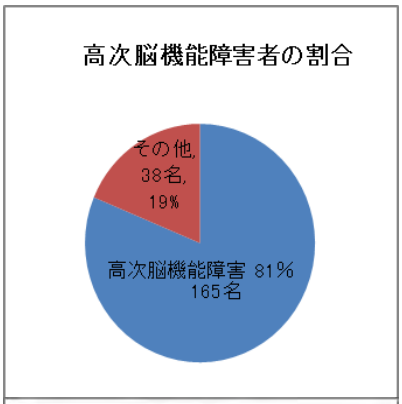
2011年１月発行　http://www.kanagawa-rehab.or.jp

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

新年第一号の職能科通信です。利用者並びに関係者の皆様のお役に立てますよう職能科一同、精一杯努力してまいります。本年もよろしくお願い致します。

尚、バックナンバーを HP にアップしました。ご覧ください。

高次脳機能障がいを有する入院患者への支援



今号では、入院されている高次脳機能障がいの方々への支援についてご紹介致します。昨年度の実績で、職能科を利用されている入院患者数は 203 名であり、そのうち高次脳機能障がいの方の割合は、約８割（165 名）に上ります。受傷（発症）からの期間は、約半数の方々が３カ月未満であり、６か月未満では約７割になります。そのため入院患者の方への支援としてアセスメント及び認知面でのリハビリがメインとなります。

入院の期間は、概ね３ヶ月　主治医を中心としたリハスタッフによるチームで支援にあたります。入院患者の中には、復職を目指している方も多く、「退院したらすぐに職場に戻る。」と話される方も少なくありません。しかし、実際はというと気づかれていない様々な課題を抱えている場合が多くみられます。まずは、ご自身の状態や変化に気づいていただき、障がいの理解を深めていただくことが第一歩であると考え、それぞれのスタッフが専門的な視点でアプローチを行っています。

その中にあって職能科では、作業・職業的な支援を行っています。具体的には、面接やテストバッテリーを用いて利用者のニーズの把握、作業評価を行い、個別の支援計画を作成、その後ご本人の状態に応じて個別の訓練に入ります。訓練課題としては、幕張式ワークサンプルを用いた事務・PC・実務的な作業課題や PC データ入力、脳トレ課題などがあります。そういった課題を通して、利用者へのフィードバック、面接を繰り返しながらご自身の障がいや変化についての気づきを促し、そして知っていただく、その上でどうしたらよいのか対処方法を身につけてもらうというプロセスで進めていきます。ご本人の障害認識を高めるアプローチとともに、利用者を支えるご家族への支援もこの段階から行い、関係性を高めていくことも重要です。復職や就労というニーズの達成に向けては、作業能力だけでなく、健康管理を含む生活面での安定が欠かせません。退院後は外来通院という形で支援が継続される方も多くいますが、退院後の生活、日課の組立についても入院中から支援を行っています。　（今野　政美）

脳血管障がい者の復職支援　事例紹介

Ａさん(40 代)は脳出血を発症し、身体障害者手帳 1 級の後遺障がいを負われました。急性期には重篤な病状でしたが入院医療とリハ、在宅リハを通して車椅子自走まで回復、ご自身が「なんとか復職したい」と希望され当科の支援を開始しました。復職には「職場におけるADL《特にトイレ、更衣、食事》の自立」「通勤の自立」「労働時間内の職務遂行能力の獲得」が必要であることを確認、職場との調整に入りました。職場では「安全を確保した通勤方法の確定⇒通勤労災の回避」「8 時間労働可能であること」の 2 点が提示され、職場内環境(トイレ及び出入り口の改修)は整備する姿勢が示されました。具体的な目標設定が明確となり、「PC 操作のスキルアップ(当職能科)」「通勤手段の模索(OT)」「ADL 自立(生活)」を行うと同時に職場に現状を報告し情報の共有化をはかりました。支援開始から 1 年半後、頻度や勤務時間を漸増したお試し出勤で実績と自信を積み、復職しました。

(千葉　純子)

就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2010年11月･12月の人数	9名
4月からの累計人数	18名

就職・復職者の人数		
2010年11月･12月の就職・復職者	新規就労	1名
	復職・自営業	4名
4月からの累計	新規就労	8名
	復職・自営業	20名

創作活動を通した支援　彫金

職能科で行っている彫金は、所謂一般的な宝飾品の彫金では無く、レリーフ作品です。薄い銅版に図案を転写し、先の丸い鉄筆で図案を深く線描き(罫書き)した後、背景を細かく点で打刻し図柄を浮き立て(打刻技法)ます。そして研磨剤で磨き、色付けしない部分を油性ペンでマスキングし、硫化カリウムと言う試薬を溶かした溶液に漬け、化学反応で色付け(焼き)し、シンナーでマスキングを落とし、クリアラッカーで定着・乾燥・額入れする作品作りです。

大きさは初歩のコースターから表札、中板、大板があります。技法としては他に薄い銅版の裏から直接木べらで銅版を伸ばして凹凸を表現する膨らまし技法があります。

彫金作業では、図案の選択、転写、罫書き、打刻等の作業遂行を通し、判断力、注意力、集中力、手指の巧緻性、作業耐性等、高次脳機能障がいの評価と気づきおよびフィードバック、片麻痺の方の効き手交換、手指力の向上など機能訓練としても有効です。

作品の完成に感動され入院中の励みとなり、ご家族やお世話になった方へのプレゼントにと創作的意欲を滋養され、退院後の継続的な創作活動の一助となっています。(大家　久明)